

「人権のひろば」
に対するご意見、
ご感想は戦略企
画室広報広聴グ
ループまでお寄
せください。

先入観や習慣に

とらわれていませんか？ 自分で考え、感じて、行動しよう！

私たちの身の周りには、科学的根拠はないけれど、先入観や思い込みなどの定着につながっているものがあります。

その一つに「六曜」があり、縁起のいい日を選んでお祝いの行事を行うなど、日々の吉凶を判断する際の参考になっています。

「六曜」は中国を起源とし、全ての日を「大安」や「仏滅」など6つの吉・凶日に機械的に分けたものです。

何を信じて、何を信じないかは「個人の自由」として尊重される現在、私たちは、さまざまな価値観や習慣から自分自身の基準を持っています。しかし、この基準が先入観となつて、無意識のうちに偏見や排除といった差別意識が生じること

があります。

例えば、昨年、大相撲の会場で人命救助にあつた女性に対して、土俵から出るように要求し、その後土俵に塩をまいたことは、人権問題になりうる事例として大きく注目されることとなりました。

このような事例においては、正しい情報を収集し、理解することも重要ですが、相手の意見を尊重し、多様性を認め合うことが、お互いの人権尊重に必要不可欠です。良好な人間関係と地域社会を築くには、毎日の生活の中で無意識に行う自分の習慣や基準が、先入観や偏見につながらないように注意することが重要ではないでしょうか。

今後、日本経済には、外国人労働力がより一層必要になると考えられ

ます。また、2020年東京オリンピック、2025年大阪・関西万博では、多くの外国人が日本を訪れることが見込まれ、外国人と接する機会がますます増えていきます。

外国人との関係においても、お互いを認め合う意識が求められ、相手の文化や習慣を正しく理解すると同時に、日本の文化や習慣を分かりやすく伝えることが重要となります。

個々の価値観や先入観に縛られず、相手を尊重し、お互いの多様性を認め合える関係を作っていくためには、「自分で考え、感じて、行動する」ことが大切です。

日々の暮らしの中にある「習慣」や「文化」、そして「人権」について、いろいろな立場や角度から考えることを始めてみませんか。



生活安全

だより

シリーズ

194

電力自由化によるトラブルに注意！
契約の切り替えは慎重に！

相談事例

契約中の大手電力会社を名乗り、「電気料金が安くなる」と電話があり、言われるまま検針票を読み上げた。後日、送られてきた書面を見ると別の事業者が契約が切り替わっていた。

アドバイス

電力小売全面自由化によって、さまざまな事業者が一般家庭に向けて電気を販売できるようになり、店頭や電話、訪問での勧誘や営業活動が行われています。

契約の切り替えをする場合は、検針票に記載されているお客様番号や供給地点特定番号などが必要です。事業者はこれらの情報を入力できれば、消費者の意に反して切り替え手続きを進めることもできるので、検針票の情報の扱いは注意しましょう。

契約先を切り替える際、事業者は書面で料金を含む供給条件を説明しなければなりません。料金のみではなく、契約期間や解約・割引の内容などを確認し、納得して契約をすることが大切です。

訪問販売や電話勧誘販売で契約をした場合であれば、クーリング・オフにより契約解除ができます。

分からないことがあれば消費生活センターにお問い合わせください。

消費生活センター ☎ 870・0492
(午前9時～午後5時。土・日曜日、祝日を除く)